

226 pp., 35 pls. London.

* * * *

Pleurotaenium (コウガイチリモ属) は広く世界各地に分布する淡水産緑藻類で、これまでにおよそ 50 種が知られている。*Pleurotaenium* は Nägeli (1849) によって設立されたが、現在多くの研究者に受け入れられている属の概念は Grönblad (1924) によって変更されたものである。Grönblad による属の概念の変更理由は、それまで所属が不確定であった数種を *Pleurotaenium* に属させるためであった。これら数種は、後に Krieger (1937) が “minutum-group” としたものである。今回、日本各地から集められた多数の液浸標本及び培養標本にもとづいて詳細な観察を行い、次の結果を得た。1) *minutum-group* の細胞壁に見られる粘液孔 (mucilage pores) は、本来の *Pleurotaenium* のものに比べ、あきらかに直径は小さく、分布が高密度である。2) *minutum-group* の葉緑体は基本的には半細胞中央に 1 本で、その長軸上にビレノイドが一列に並ぶいわゆる “中軸性” であるのに対し、本来の *Pleurotaenium* では、一列のビレノイドをもった常に複数の葉緑体が細胞壁に接するように位置する “側壁性” である。3) これまでに報告されている *minutum-group* の接合胞子は、全体が大きな瘤状突起で被われているのに対して、本来の *Pleurotaenium* の接合胞子の表面には瘤がなく平滑である。さらに、今回得られた *Pleurotaenium* の熟した接合胞子の全てに発芽口が観察され、中層の膜 (mesospore) の外側表面には多数の乳頭状突起が観察されたが、これらの形質は *minutum-group* では知られていない。以上の結果から *minutum-group* を *Pleurotaenium* に属させることは不適当と判断し、新属 *Haplotaenium* (ヒトツオビコウガイ属；新称) を設立し、ここに属させることを提案する。

□Kanda Hiroshi: Catalog of moss specimens from Antarctica and adjacent regions 176 pp. 国立極地研究所、東京。非売品。神田啓史氏の編集による極地研所蔵の約 6000 点のコケ類標本のリストで、電算機により記録編集されたものである。一点のレコードは属・種・地域・経緯度・高度・所蔵機関・採集者・採集日付・同定者・同定日付・登録番号など 13 項目にわたる。リストでは項目の頭をそろえて見やすくしてある。リストは植物区系ごとに蘚類・苔類に分け、その中は科でまとめて属種の abc 順に配列されている。科以上のデータは一点づつのレコードに含まれていないようなので、この配列を得るには、裏にかなりの工夫があったものと推察する。またシステム的には必要に応じて項目検索をおこない、さらにくわしい記述のあるラベルの出力も可能であるとのことである。

(金井弘夫)